

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2021年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	【併用】心理学実験Ⅰ		
担当者(Instructors)	橋 廣	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
心理学実験について体験し、実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を学ぶこと、また実験の方法、結果の集計方法や考察の仕方など、レポートのまとめ方を学ぶことを目的とする。受講者は各自実験者として実験を行うだけでなく、実験参加者にもなる。また、毎回の授業で各自レポートの提出を行う。なお週によって、対面授業とオンライン授業を使い分けて実施する。なお、オンデマンド授業時の質問等の受付については、授業内に指示する。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義と演習形式で授業を行う。 グループワークやディスカッションを取り入れ、実験結果についてプレゼンテーションを行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	この授業を受講するうえで重要となる事項や留意点を説明する。また成績評価や授業計画などを説明する。	□
第2回	心理学の概要、レポートの書き方	この授業で扱う心理学の領域の基礎知識を確認する。レポートの書き方を学術論文を通して解説する。	□
第3回	ラテラルティ（１）概要解説、「問題と目的」	左右の脳半球機能差に関する実験の背景や実験方法（近赤外線分光法を含む）を解説し、レポートの「問題と目的」部分を書けるようにする。	□
第4回	ラテラルティ（２）実験、「方法」	半球機能差に関する実験を、手指操作実験を通して行う。また、レポートの「方法」部分を書けるようにする。	□
第5回	ラテラルティ（３）集計・分析、「結果と考察」	手指操作実験のデータを基に、集計および分析を行う。レポートの「結果」と「考察」部分を書けるようにする。	□
第6回	ミュラーリヤー錯視（１）概要解説、「問題と目的」	ミュラーリヤー錯視に関する実験の背景や実験方法を解説し、レポートの「問題と目的」部分を書けるようにする。	□
第7回	ミュラーリヤー錯視（２）実験、「方法」	ミュラーリヤー錯視に関する実験を行う。また、レポートの「方法」部分を書けるようにする。	□
第8回	ミュラーリヤー錯視（３）集計・分析、「結果と考察」	ミュラーリヤー錯視に関する実験のデータを基に、集計および分析を行う。レポートの「結果」と「考察」部分を書けるようにする。	□
第9回	両側性転移（鏡映描写）概要解説	両側性転移に関する実験の背景や実験方法について、鏡映描写課題を通して解説する。実験についてレポートを提出する。	□
第10回	調査（質問紙）法（１）概要説明、質問項目の作成	質問項目の作成上の注意点など調査法の基礎的な事柄を学習した後、関心のあるテーマを決定し、工夫した質問項目を作成し提出する。	□
第11回	調査（質問紙）法（２）調査、集計・分析、レポート作成	調査を実施し、データの集計・分析、レポートを作成し提出する。	□
第12回	記憶実験：系列位置効果（１）概要解説、実験計画	記憶に関する研究（系列位置効果）を解説する。記憶実験に関する実験計画を立てる。	□
第13回	記憶実験：系列位置効果（２）実験、集計・分析、レポート作成	記憶に関する実験を実施し、データの集計・分析、レポート作成を行う。	□
第14回	グループでの発表	実験結果をグループで発表する。	□
第15回	まとめ	この授業のまとめを行い、課題レポートを提出する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、各実験で扱うキーワードについて調べてくる。実験前には、レポートの「問題と目的」部分は書き上げておく。さらに、実験後はデータの解釈を行ううえで重要となる論文を調べる。特に実験後の検索はレポートの「考察」部分で重要な作業となる。これらのことを踏まえ、配布された資料や参考図書などを基に学習をする（2時間程度）。事後学習として、授業の終わりに提示した課題について学習をする（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題レポートは、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	問題意識を持った心理学的テーマで実験を実施し、得られたデータから問題の解決策を探究できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			20%	80%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回授業時の提出物(40%)
第15回授業時に提出する課題レポート (40%)

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	村上香奈・山崎浩一編 「よくわかる心理学実験実習」 ミネルヴァ書房	978-4-623-08145-5
2		
3		
4		
5		